



教えて！  
営農さん

## 良い作物は良い土壌から！ 作物にとって良い土壌とは

作物は土のなかに根を張り、  
養分や水分、酸素を吸収して生長します。  
根が元気よく育つ土壌をつくり、  
継続して、安定した収量確保につなげましょう。

圃場を持続的に  
生産可能にするためには  
土壌を整えることが重要です。  
今回は理想的な土壌について  
ご紹介します。

【編集担当】  
営農振興課 荒川 恵梨奈  
「教えて！営農さん」では、農産物の  
栽培に関する情報をお届けします。



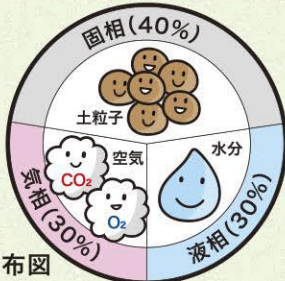
### 理想の土壌とは

土壌は、固相＝土、液相＝水分、気相＝酸素で構成されています。作物の生長には、固相40%、液相30%、気相30%のバランスを保つことが重要です。

土壌の三相を理想のバランスにするには、  
土の状態を団粒構造に  
変えることが大事です！



土壌の  
三相分布図



### 営農 EYE 土壌を団粒構造にするために

土壌を団粒構造にするには土中の微生物の助けを借りる必要がありますが、時間がかかります。堆肥など土壌生物の食べ物となる有機物を施用することで、団粒化を促すことが可能です。

### 団粒構造とは

「団粒構造」とは細かい土の粒子がかたまりになっている状態のこと。この構造の土壌は空気や水の通りが良く、やわらかで保水性があります。

団粒構造



単粒構造



土の構造

生育不良でお悩みの方は一度、圃場の土壌を確認してください。

JA広島市では、圃場の状態に合った堆肥を提案・販売しております。地区担当の営農指導員にお気軽にご相談ください。



はじめての  
家庭菜園

サラダや焼肉のおともに  
**サンチュ**

「かきちしゃ」や「包み菜」とも呼ばれます。レタスと同じキク科で、油とともに食べることでカルシウムの吸収率がアップするといわれています。

### ① 種まき

#### 発芽には光が大切

培養土をコンテナの8分目まで入れ、まき筋を作る。種をできるだけ重ならないようにまき、周囲の土を光が当たるようごく薄く被せ、手のひらで軽く押さえて土と種を密着させる。

### ② 間引き・追肥

#### 間引いた葉は サラダなどに活用

発芽が揃ったら一度間引き、そこからは成長に合わせて順次、株間が5cm程度になるよう間引き、日当たりと風通しを良くする。発芽から2週間たったなら、液肥を施す。

### ③ 収穫

#### 外葉から使えば 長く楽しめる

大きく育ったものから根元をハサミで切って収穫。数が少なくなってきたら、必要量を外葉からかきとって収穫することも可能。



株ごと又は  
外の葉から収穫



株間  
5cmくらい



種が  
重ならないように  
まく  
土は  
薄くかける

#### ここに注意

●レタスの仲間はハモグリバエの被害を受けやすいため、葉に白い線があるなど被害を受けた場合は葉ごと処分するようにしましょう。

#### 栽培のポイント

- 発芽には光を要するため、種まき後の覆土はごく薄く
- 枯れた葉や雑草はこまめに取り

参考文献：「コンテナでつくるはじめての野菜づくり」(新星出版)  
「からだに優しい野菜の便利帳」(高橋書店)

#### 用意するもの

- 種 ●コンテナ(30cm幅) ●鉢底石
- 培養土 ●液肥

#### 栽培カレンダー

2	3	4	5	6	7	8	9	10	
種まき				収穫					

